

令和5年度 改善状況報告書

組織名	大学教育委員会
-----	---------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
令和 3年 2月	NBASの課題 ・学生の利用率の低さ ・システムの機能、利便性の見直し (カリキュラム変更への対応など) ・各学部における利用率を高めていくために、現状や機能等についての全学的な議論が必要である。	教育基本問題検討作業委員会、監事監査意見	<ul style="list-style-type: none"> ・NBASの活用に関して最も効果的なのは、各学部のカリキュラムにおいて、アセスメントシステムを活用した履修指導を組み込むことである。また、これを学位プログラム評価に活用することで、評価のためのデータ収集を効率的に実施することも可能となる。そのため、各学部のカリキュラムにおいて、NBASの利活用を再検討いただくことが優先事項となる。 ・その上で、新しい教育プログラムの観点から必要な機能を再定義した上で、NBASのバージョンアップ(リプレース)を進める。 ・全学教育DX化の推進と学習者本位実現のためのシステム運用をあわせて実行する。 	教育基盤機構教育学マネジメント部門	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>現行の学務情報システムをベースに履修登録時(学生自身が学修を設計する時)に利用可能な統合システムを構築した。具体的の実装する機能は、現NBASでも比較的に利用されているアセスメント機能(学修の振り返りに使用)を移管した。</p> <p>今後、新しい教育プログラムの観点から、成績評価の可視化、単位取得状況と成績評価点数に応じたレベル表示、さらに、より発展的な機能として履修科目リコメンド、学修履歴・成績・進捗状況の記録・確認(高校調査書から卒業後評価まで)、卒業生の記録参照(教学IRによる分析結果の提示)、オンライン・コラボレーション等により、個々の学生の問題意識にあった学修者本位の学びを実現するよう、新NBASを学務情報システムに実装した。令和4年度からディプロマサプレメントのシステム導入に着手し、令和5年度からの運用開始に向けて準備を進めている。</p>
令和 3年 3月	語学教育担当教員の減少	教育・学生支援機構コモニタシーセンター	教育基盤機構教育学マネジメント部門と学系が協議し、全学教育の運営をも視野に入れた人事を進める必要がある。	教育基盤機構教育学マネジメント部門	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>初修外国語の今後の在り方について、検討を開始した。令和5年度に、現行の初修外国語カリキュラムの段階的な見直しを行い、外国語ベーシック科目をグローバル理解科目に再編成した(令和6年度開始)。</p>

令和 4年 3月	<p>ポストコロナの遠隔授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナの遠隔授業を継続するため、遠隔授業実施の定義等を定めた要項を制定し、遠隔授業の累積修得単位数等について検討する。 	大学教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナのオンライン授業を継続するため、遠隔授業の定義等を定めた要項を策定する。 ・授業形態の学生への提示について、シラバスにおいて提示する。 ・個々の学生ごとに遠隔授業科目の累積修得単位数を集計できるよう、学務情報システムの改修を行う。 	教育基盤機構 教育学マネジメント 部門	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>ポストコロナのオンライン授業を継続するため、遠隔授業の定義等を定めた要項を制定した。</p> <p>授業形態の学生への提示について、シラバスにおいて提示した。</p> <p>令和5年度以降の遠隔授業（オンライン授業）科目の取り扱いを策定し、令和5年3月に教職員及び学生に通知した。</p> <p>また、当該取り扱いを踏まえ、学務情報システムの改修を令和4年度から行い、個々の学生ごとに履修登録画面や成績確認画面において遠隔授業が判別できたり総修得単位数の内訳として遠隔授業科目の単位数が分かるよう制度に見合う改修を行った。</p>
令和 4年 3月	<p>メジャー・マイナー制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の副専攻プログラム（オナーズ型マイナー）について担当教員の自助努力と責任感に依拠するところが大きく、属人的であり大学組織としてのマイナー学修（多様な学び）の永続性が担保できていない。 ・学生はCAP制等の教育の実質化という制度面から履修科目数が制限されている。加えて、主専攻プログラム修了を重視した履修指導が行われている現状もある。 ・学生が主体的かつ積極的にマイナーを履修するに十分な学修支援体制ではない。 ・主専攻プログラムの履修要件やカリキュラム、時間割構成を含めた全学的視野での議論が必要である。 	知識集約型 社会を支える 人材育成 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャー・マイナー制を本格的に導入し、教育プログラムの体系化と学習者本位の学びを実現する。 ・本学の有する多様な専門領域を基盤として、全学に向けた「マイナー学修パッケージ」を提供することで、主専攻（メジャー）を学びながら、他分野を副専攻（マイナー）として学ぶプログラムを構築する。 → 主専攻+副専攻ではなく、1つの教育プログラム内にメジャーとマイナーの学修を含める。 ・全学部向けの分野横断を支援する授業科目を開設し、アカデミックコーディネーターにより指導を進めることで、学生一人一人の問題意識にあった分野横断型の学びを創生する、きめ細かな学修支援体制を整備する。 	教育基盤機構 未来教育開発部門	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>令和2年度に知識集約型社会を支える人材育成事業に応募・採択され、本格的なメジャー・マイナー制へと舵を切った。ここでいうマイナーとは卒業要件単位数（多くの学士課程は124単位）の中で、主専攻とは異なる分野の科目群から学生自身が体系的な学びを構成し、12単位以上を取得するものである。この教育プログラムは令和令和3年度から開始している。学生自身によるマイナー学修の構築が主眼であることから、事業経費によりアカデミックアドバイザー（履修指導のための教員）を配置し学生が利用できるマイナー学修の支援室を整備した。</p> <p>令和3年7月には副専攻プログラム（オナーズ型マイナー）の継続に関する意向について調査を行った。また、各学部・全学組織に専門領域をベースとしたマイナーの提供について検討を依頼し、令和4年度はパッケージ型マイナーでは新規24、継続3、オナーズ型マイナーでは、継続14の開設となった。令和5年度は、パッケージ型マイナーでは新規2、継続27、オナーズ型マイナーでは、継続14の開設となった。</p>

			<p>・Gコード科目および各主専攻プログラムの専門科目を用いてマイナー学修を構成することにより、属人性を排し、マイナー学修の永続性を担保する。</p>			<p>令和5年度にメジャー・マイナー制を推進するため、マイナー部会、教務専門委員会及び大学教育委員会で議論し、令和6年度以降の入学からオナーズ型マイナーの履修を停止することとし、パッケージ型マイナーに移行することを決定した。</p> <p>これにより、令和6年度から16のパッケージ型マイナーが増加し、合計46のマイナー・プログラムを運用することになり、学生の複眼的な学びを充実させることができた。</p> <p>引き続き、学内委員会において分野横断学修のプログラムの提供体制や履修指導について議論し、メジャー・マイナー制の充実・改善を図る。</p>
令和3年1月	大学院改革の推進	大学改革・大学評価委員会	令和4年度以降の大学院将来ビジョンの策定及び大学院改革を更に推進する。	大学改革・大学評価委員会/大学教育委員会合同会議 大学院教育支援機構 大学院改革推進部門	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>「大学院改革推進室」を設置し、本学の大学院への進学者の増加、有為人材の輩出、研究力の向上等を図るため、本学の大学院における教育プログラムの改善、教育課程の再編及び社会ニーズ等を踏まえた新たな教育プログラムの開設等に関する具体的方策を策定している。また、大学院の教育プログラム評価の実施にあたり、大学院改革に資するものとなるよう、令和3年12月から翌3月にかけて、大学院における教育課程や学修成果の状況・課題などに関する「大学院改革のための教育プログラム実態調査」を行った。</p> <p>令和4年10月1日に設置された大学院教育支援機構を中心に大学院改革の基本方針（仮称）を検討することとし、令和5年3月10日に開催された大学改革・大学評価委員会及び大学教育委員会（合同会議）において、大学院改革に向けた基本方針が審議の結果承認された。</p> <p>また、大学院改組を踏まえた教育改革に向けた検討WGにおいて、検討を進めている。</p>

組織名	大学改革・大学評価委員会
-----	--------------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
平成 30年 3月	学位プログラム評価制度の点検・評価と改善	大学改革・大学評価委員会、「新潟大学における「学位プログラム評価」の基本枠組み」	「新潟大学における「学位プログラム評価」の基本枠組み」の「6. 制度の見直し」に従い、総合点検の実施翌年度以降、制度のあり方について、適宜見直しを行う。	大学改革・大学評価委員会 教育戦略統括室	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	本学におけるアセスメントプラン(学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等について定めた学内方針)を策定するため、令和5年6月に「学位プログラム評価指針」における「学修成果の評価と達成状況」を「学修成果の評価に係る基本方針と実施計画」に改正した。
令和 3年 3月 ～	第4期中期目標期間に係る国立大学法人評価制度への対応	大学改革・大学評価委員会	第4期中期目標期間に係る国立大学法人評価制度が決定次第、「新潟大学内部質保証及び自己点検・評価実施要項」の改正等、内部質保証体制の見直しを検討する。	大学改革・大学評価委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	第4期中期目標期間1年目(令和4年度)の中期目標・中期計画の進捗状況について自己点検・評価を実施し、その結果を令和5年9月に公表した。
令和 6年 2月 ～	第4期中期目標期間4年目(令和7年度)に実施する3年目終了時評価(部局計画評価)の対応	大学改革・大学評価委員会	第4期中期目標期間4年目(令和7年度)に、各部局が策定した部局計画の自己点検・評価を実施し、その結果に基づく資源配分を行う。	大学改革・大学評価委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	3年目終了時評価(部局計画評価)に関する細目を定めた「第4期中期目標期間3年目終了時評価(部局計画評価)実施要領」を令和6年3月に策定した。

令和3年8月	自然科学研究科において、令和元年度の入学定員充足率（入学定員に対する実入学者の割合）の過去5年間の平均が、大幅に不足している（0.7倍未満）。	大学機関別認証評価評価結果	その主な原因を博士課程への理解不足とキャリアパスへの不安と分析し、以下の取組を実施する。 ・外部の就活・進学サポート機関とも連携したキャリアガイダンスの実施と、文部科学省の事業を活用したキャリアパス形成支援（令和3年度より）の実施 ・他の研究科と連携したプログラムの開設に加え、文理融合プログラム、ライフサイエンスに係るプログラムの開設を予定するなど、学生や社会にとって魅力あるプログラムの開設 ・学生による学生のための「学術研究の推進・進路開拓」を考える学生組織の整備を計画 ・JICAの研修員受入事業及び文部科学省のプログラムを活用した留学生受入の拡大、ダイバーシティを拡大するための特任助手任用事業の開始	自然科学研究科、 大学改革・大学評価委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 （ ）	以下の取組を実施し、自然科学研究科における令和5年5月1日現在での過去5年間の入学定員充足率の平均が0.709倍となり、「大幅に不足している」と判断される基準（平均0.7倍未満）を超えた。 【取組】 1 PhDリクルート室における博士課程進学者獲得に向けた取組 (1) キャリアマネジメントセミナー (2) 大学院生のためのキャリアセミナー (3) PhDリクルートフォーラム 2 自然科学研究科における博士後期課程進学者獲得に向けた取組 (1) 独立行政法人国際協力機構（JICA）研修員の受入れ (2) 進学情報フォーラムの開催 3 「新潟大学における大学院改革に向けた基本方針」の策定
令和3年8月	現代社会文化研究科、自然科学研究科、保健学研究科において、令和元年度までの過去4年間の「標準修業年限×1.5」年内修了率が、相当程度低い（博士前期課程85%未満、博士後期課程70%未満）。	現況分析結果（教育）	標準修業年限年内に修了できるよう、研究進捗の定期的な把握と指導、修士論文や博士論文の作成に資する全学及び研究科独自の研究費支援または学会発表参加支援等を行う。	該当する研究科、 大学教育委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 （ ）	

令和 4年 4月	新潟大学将来ビジョン2030の実現及び第4期中期目標・中期計画の達成に向けてより機能的な組織体制にする。		機構・本部の体制の見直しを行う。	大学改革・大学評価委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和6年4月1日付けで、DX推進機構にデジタル教育支援基盤部門を新設することを決定した。
令和 4年 6月	第4期中期目標期間は、年度計画が廃止されますので、中期計画のKPIについてはその達成状況をしっかりと管理する必要があります。	令和3年度監事監査意見書	中期計画の進捗状況の管理に関して、毎年度指標の状況を確認する。	大学改革・大学評価委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	第4期中期目標期間1年目（令和4年度）の中期目標・中期計画の進捗状況について自己点検・評価を実施し、各評価指標については実績及び達成状況を確認した。

組織名	国際交流委員会
-----	---------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
平成 27年 4月	学生の海外渡航時における安全・危機管理に関する全学的な体制整備が必要である。	監事監査意見	学生向けの海外渡航に係る安全管理教育を行い（H28年度から学生向け海外渡航前安全管理オリエンテーション開始済）、海外渡航情報の届け出及び海外旅行保険の加入について徹底する（H28年度から学研災付帯海外留学保険「付帯海学」導入済）とともに、海外において事件・事故等が発生した際の危機管理体制を整備する（H30年6月～危機管理サービスを導入済）。	留学交流推進課	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>令和元年度末頃から継続的に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大状況に対応した派遣留学に係る指針・学内手続・対応フロー図等を作成して適宜修正に取り組んできた。令和2年10月から「海外渡航計画書」WEB登録化を開始し、学生提出の海外渡航情報を学務情報システム上で即時把握できるよう改善した。令和4年度以降は、政府によるCOVID-19に係る海外渡航制限の段階的緩和に応じて、派遣留学に係る学内手続きを順次整理縮小してきた。</p> <p>令和5年4月に本学の海外留学・旅行の行動指針が「コロナ後の日常」へ変更され、5月に政府のCOVID-19に係る感染症危険情報が解除されたことから、学生の海外渡航においてもCOVID-19を一般感染症と位置付け、感染症全般の注意確認事項を含む危機管理体制に移行し、COVID-19固有の危機管理体制を終了した。なお、令和6年度以降は、危機管理サービスの契約見直しも含め、今後の危機管理体制の在り方を検討予定である。</p>
平成 29年 4月	留学生の就職支援体制が整備されていない。	外国人留学生からの意見	留学生向けに特化したキャリア支援体制を構築する。	国際センター キャリア・就職支援オフィス 留学交流推進課 キャリア支援課	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>平成29年度以降、留学生向け就職ガイダンスを年2回程度実施（令和2～3年度はコロナ感染拡大の影響で留学生がほとんど渡日できなかったため、実施なし。）令和3年度に一般財団法人留学生支援ネットワークが運営する「留学生就職支援ネットワーク」に加盟し、日本で就職を希望する留学生向けに情報提供を行った。</p>

						<p>令和4年度には、金沢大学が主体となる「大学の国際化促進フォーラム形成支援事業」に参画し、取組事例について情報共有を行った。併せて、留学生就職ガイダンスを二か国語（日英）で実施し、留学生に対し日本の就職活動について情報提供を行った。</p> <p>令和5年度は、日本で就職したい留学生に向けて「ビジネス日本語」などのキャリア科目を新規に開設した。また、「国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーション」の授業科目の一部を公開して「留学生就職準備セミナー」として実施した。引き続き、留学生へのキャリア支援体制整備について検討する。</p>
令和2年4月	留学生のメンタルヘルスケア体制が整備されていない。	留学生受入れ教員及び留学生受入れ部局担当係からの意見 留学生からの相談	留学生向けに特化したメンタルヘルスケア体制を構築する。	国際センター 保健管理センター 留学交流推進課	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、不安や孤独を感じている留学生に対し、電話による留学生向け相談窓口を開設し、多言語に対応して相談を受け付けた。オンライン授業から対面授業への移行の進行等を踏まえて、令和4年9月末で電話対応による相談窓口は終了としたが、引き続き外国籍の教員がメール等で多言語（日・英・中）によるきめ細やかな相談対応体制を継続した。また、保健管理センターでは、医師が相談を受ける際に翻訳機を用いて多言語対応が可能となっている。</p> <p>令和5年度にアフターコロナで渡航及び行動制限が縮小・撤廃されたことにより新規受入れ留学生が増加し、メンタルヘルスに起因する危機管理対応の機会が増加したが、これまでの対応経験と危機管理フローを活かし、所属部局・保健管理センターと、交換留学生の場合は所属大学等とも、逐次情報を共有して適切に対応することができた。今後は、現在の留学生のメンタルヘルスケア体制を維持しつつ、更なる質の向上に努めていく。</p>

組織名	入学試験委員会
-----	---------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
令和 3年 1月	新学習指導要領に対応した入学試験の策定に関し、高等学校の現状を踏まえて検討してほしい。	高等学校からの意見	高大接続改革を考える会や高校訪問等で情報を収集し、令和7年度入試に向けた検討の一助としたうえで、本学の基本方針を策定し公表する。	教育基盤機構アドミッション部門 入学試験委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>令和3年10月に入学試験委員会のもとに、令和7年度入試について検討する入試検討専門委員会を設置し、各委員に対して、本学の方針案の策定について検討を依頼した。</p> <p>令和4年2月に高大接続改革を考える会（高等学校教諭11人参加）で、「情報」等新学習指導要領に関する各高等学校の対応状況を聴取し、意見交換を行った。</p> <p>令和4年7月に高等学校等からの意見も踏まえた本学の「令和7年度入学者選抜における教科「情報」の取扱いについて」を取りまとめ、入学試験委員会で承認のうえ、本学ホームページ上で公表した。</p> <p>令和4年12月に各学部の試験（大学入学共通テスト及び個別学力検査）で課す教科・科目及び配点、個別学力検査で課す教科・科目の出題範囲を取りまとめ、入学試験委員会で承認のうえ、本学ホームページ上で公表した。</p> <p>令和5年度には、旧教育課程履修者等に対する経過措置を検討し、公表案を作成済みであり、令和6年4月の入学試験委員会で承認後、ホームページ上で公表する予定である。</p>

組織名	施設環境委員会
-----	---------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
令和 4年 3月	キャンパスマスタープラン2022 (R4.3承認)に基づく施設整備を推進し、魅力あるキャンパスを形成するため、実行計画の策定や管理体制の構築が必要である。	施設環境委員会 施設整備推進専門委員会	新たな管理体制として「キャンパス整備推進部会」を設置し、キャンパスマスタープランに基づく施設整備の点検や、デザインガイドライン及びアクションプランの策定を行う。	施設環境委員会 施設整備推進専門委員会 キャンパス整備推進部会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和4年度にキャンパス整備推進部会を設置し(4月)、デザインガイドラインを策定した(7月)。令和5年度は、本学のビジョンやキャンパスマスタープラン2022に基づき「新潟大学イノベーションコモンズ」を策定し、その実現に向けた施設整備事業の概算要求を行った(6月)。引き続き、施設整備の点検やアクションプランの策定を行う予定である。

組織名	学術資料運営機構附属図書館
-----	---------------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
令和 4年 9月	令和6（2024）年以降の全学経費による電子ジャーナル選定方針及び選定案を策定する	電子ジャーナル検討専門委員会	電子ジャーナル検討専門委員会において、本学における教育・研究環境のあるべき姿を想定するとともに、利用状況等を鑑みたタイトルの選定案の検討を行い、得られた選定案を役員会に報告する。	学術情報部	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和4年9月12日開催の役員ミーティングで、令和6年以降の選定方法等について、電子ジャーナル検討専門委員会で検討することを確認した。 現在、電子ジャーナル検討専門委員会において検討中である。

組織名	DX 推進機構情報基盤センター
-----	-----------------

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	進捗状況	具体的な進捗・改善状況 (根拠資料名でもよいが、その場合は根拠資料も合わせて提出すること。)
年月	内容	根拠 (資料等)				
令和 5年 2月	利用者からの問合せにいつでも対応できるシステムの整備が必要である。	情報基盤センター会議	開館時間外等でも問合せに対応できるよう情報基盤センターWebサイトにAIチャットボット（自動会話システム）を導入する。	情報基盤センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和5年4月3日、情報基盤センターWebサイトにおいてAIチャットボットの運用を開始した。 令和5年度に情報基盤センターに寄せられた問合せ4,938件のうち、AIチャットボットによる問合せは1,776件（全体の36%）であった。
令和 5年 12月	情報基盤センターWebサイトのアクセシビリティ向上や情報発信の強化が必要である。	情報基盤センター運営委員会	情報基盤センターWebサイトの機能等を強化・拡充する。	情報基盤センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和6年1月26日、情報基盤センターWebサイトのリニューアルを行い、学内限定コンテンツを含むサイト内検索、自動翻訳、カレンダーイベント表示、施設予約、問合せフォーム、アクセス解析等の機能強化・拡充を行った。